2014年度

土を考える会 総会・研修会

取材・まとめ　土を考える会事務局

▶3月1日、2日
（群馬県渋川市）

関東甲信越

就農を就職に変える

3月1～2日に群馬県渋川市伊香保温泉にて関東甲信越土を考える会の総会・研修会が開催された。関東甲信越の各県から駆けつけた会員約30名に加えて、会員の呼びかけで集まった農業経営者、関係者も含めると総勢100名近くが一堂に会した。初日は基調講演と実践発表、さらにパネルディスカッションと頭をフル稼働するプログラムが続き、2日間、同じ会場での研修会となった。

【1日目】

基調講演は**（独）農研機構・中央農業研究センターの宮武恭一主任研究員**を講師に招き、「米をめぐる情勢と産地の取り組み」「大規模経営の販売対応と技術革新の可能性」をテーマに話を**聞いた。大規模経営の事例として、茨城県の横田農場の**事例が挙がり、今後は100haを超える経営体も増えるという認識のもと、乾田直播をはじめとする水稲の低コスト生産の重要性が語られた。

続いて、経営実践発表として長野県白馬村の㈱ティーエムの津滝俊幸氏が講演した。経営概要を紹介した後、話題は会社経営として地域の特徴を活かした人材育成の取り組みに移った。人が集まる仕組みづくりについての考え方を示し、さらに同社の雇用の実情を赤裸々が語られた。その後、講師2名と昨年夏の研修会で講師をつとめた**㈲トップリバーの嶋崎**秀樹氏、スガノ農機㈱の菅野充八氏がパネリストとなり、会場を交えたディスカッションが繰り広げられた。家族経営から雇用に一歩踏み出せないでいる参加者も多く、農業における雇用の話題への温度差も会場内に垣間見えた。

【2日目】

翌日は、ヒューマンドキュメンタリーの新作『土の匠』が上映された後、情報提供の場が設けられた。その中で、JRAの茨城県美浦村にあるトレーニングセンターで製造している馬糞を稲ワラや麦稈と混ぜて製造している堆肥が2種類紹介された。

新しい顔ぶれも増え、年齢層の幅が広がった同会は深夜まで懇親が続き、情報交換の場となったようだった。









1基調講演の講師、（独）農研機構・中央農業研究センターの宮武恭一主任研究員　2経営実践を紹介した㈱ティーエムの津滝俊幸氏　3パネルディスカッションのパネラー陣。㈱トップリバーの嶋崎秀樹氏の実直な語り口に会場からは笑いがたびたび上がった　4一日目の会場は円卓形式で自己紹介からディスカッションまで話題を共有した







5集合写真には農業経営者らに混ざって次年度にスガノ農機に入社する女性陣が花を添えた　6美浦トレーニング・センターの馬糞堆肥を紹介するJRAファシリティーズ㈱の新井篤夫氏　7堆肥は2種類あり、1日当たりの生産量はそれぞれ約25tと約12t。引き取りに来られる方にのみ販売している

▶3月6日、7日
（岩手県花巻市）

これからの5年は、それからの10年以上を左右する!? 今までの間隔では乗り切れない？

3月6～7日に岩手県花巻市で東北土を考える会の総会・研修会が開催された。東北各県に加えて、北海道や関東甲信越から駆けつけた会員を加えて、80余名が集まった。今年は雪が少ないという挨拶をよそに、雪が深々と降っていた。

【1日目】

初日は、農業ジャーナリストの青山浩子氏を講師に招き、「海外の農業から日本の農業をみる～ガラケーならず、ガラノーにならないために～」と題する講話に始まった。FTA締結の影響が見え始めた隣国、韓国の畜産事情やオランダ農業の自立性について述べた。引き続き、青山氏の進行で会場の参加者を交えたディスカッションへ。テーマは「貴方は修羅場をくぐり抜けられるか」。テーブルディスカッション後の発表の場では、秋田県大潟村の矢久保英吾氏の稲作を昨年でやめ、レタス栽培に転向するという告白に始まり、青森県の木村愼一氏、山形県の叶幸衛氏、秋田県の藤井清徳氏らの修羅場にまつわるエピソードが続いた。

【2日目】

2日目は、初めての試みとなるワークショップ形式で行なわれた。岩手県立大学の新田義修氏がコーディネーターをつとめ、「農業者から農業経営者へ」というテーマで会場に質問が投げかけられた。一つ目は「あなたの経営理念は何ですか?」。そして二つ目は「理想の農産物のイメージを教えてください」。各テーブルで3人一組になって話し合う形式がとられ、ひとつのテーブルに2グループという配置だった。自らが考えて意見を出し、ワークショップは進行する。多様な意見が出て会場が盛り上がりを見せた。

情報交換会だけでなく、昼間の研修会でもそれぞれの意見を出しあうという試みに慣れていない参加者もあったが、持ち帰るものが多い研修会となったようだった。情報交換会は、例年通り、深夜まで続いたようだったが……。


8


9

8海外視察の報告をする農業ジャーナリストの青山浩子氏
9 2日目のワークショップのディスカッションの模様


10


11



12

10グループが違えば、ディスカッションの雰囲気も異なり、会場は熱気を帯びていた
11ワークショップのコーディネーターの新田義修氏
12東北各県から駆けつけた東北の雄らの集合写真